

国際シンポジウムアンケート (2013/12/7) —

()内の数は、回答人数

I ご参加の目的をお聞かせ下さい。

- ・ 災害時における心理社会的支援について。災害時及び災害支援時における女性への支援及び役割について。(2)
- ・ 特に山形大学の先生の話を知りたいと思った (2)
- ・ 以前、神戸市男女共同参画審議会報をアサインされていたので、男女共同参画という本テーマは興味を持っているため (1)
- ・ テーマが興味深かったため (6)
- ・ 昨年のシンポジウムに参加し、勉強になったので今年も参加した (2)
- ・ 災害が起こった時、自分はどのような状況になると考えられるのか。女性の立場を知りたかったため。
- ・ 災害に関する土木工学を学ぶ身として、このシンポジウムから何か学べるのではないかと考えたため。
- ・ 海外、ユネスコにおける男女参画の活動を知るため。(2)
- ・ 震災後の子どもたちの教育について興味があったため (1)
- ・ 神戸大学の男女挙動参画事業についての情報収集 (1)
- ・ 職員向けの周知でシンポジウムがあることを知ったため (1)
- ・ 男女共同参画室へのサポートと専門に関連することを学ぶため (1)

II シンポジウムの内容について

1) 講演について

- とても良かった (7) 良かった (23) どちらとも言えない (0) あまり良くなかった (0)
良くなかった (0)

- ・ 日本国内まで伝わらない情報が得られた (1)
- ・ 災害時における女性の立場や被災状況の違いなど、これまでと違った視点で考えることができた (2)
- ・ 上山先生の話が非常に興味深かった。1000日目だということでTVでも特集されていた話も重なり納得性が高かった (1)
- ・ 災害と女性という、あまり普段触れない視点での話が聞けて良かった (3)
- ・ 日本では、災害時に女性が不利益を受けるという意識がないが、アジアの現状を聞いて解決する問題がたくさんあると感じた (1)
- ・ バングラディッシュやタイなど災害時の女性に関する世界の状況を知ることが出来たため (1)
- ・ ユネスコ男女共同参画部長の貴重な講演を聞いた (1)
- ・ 比較的男女共同参画という思想が一般的に知れた日本にいると女性の弱さと強さと災害についてあまり意識できないことを感じた (1)
- ・ 実際の体験や調査に基づく講演で、非常に関心を引かれた (3)
- ・ 他言語の内容でとても勉強になった。2歳未満の子どもがいるため、子ども心理学に関する内容にとっても興味がある (1)
- ・ 自然災害被災に取り組む女性専門家たちの活動、考え方について3つの講演から、学ぶことが出来た (2)
- ・ 上山先生のご講演が非常に具体的で良かった。「復興」によって地域に作られるものが、人々の日常に必要な物にならないような回路をつくっていく責任を感じた。前のお二人のご講演の内容がそこでつながるものと思った (1)

2)パネルディスカッション

とても良かった (7) 良かった (10) どちらとも言えない (1) あまり良くなかった (1)
良くなかった (0)

- ・ 様々な分野の方の男女参画についての意見やお話が聞けた (3)
- ・ パネラーの方々の分野が幅広く、様々な話が聞けたことが良かったが、時間が足りなく感じた。(1)
- ・ より一層詳しく先生方々の貴重な知恵と経験を聞く機会なので良かった (1)
- ・ 安全/安心という2つの概念の違いについて、それぞれの専門分野から弱者に対する視点を得ることが出来た (1)
- ・ 参加者に教員が少ない (1)
- ・ 一人ずつが喋る形式なのが少し残念だった。もう少し意見交換しあう形式の方がおもしろかったのではと思う (1)
- ・ 様々な立場の専門の先生からの発言がとても興味深かった。多様な視点を持つことの重要性をパネルディスカッションで改めて感じた (1)
- ・ パネラーの人達が素晴らしかった！多様な分野の専門家が simple な小概念（「安全・安心」等）をめぐって見解を披露したことによって、共通の目標＝格差を少なくする社会の物理的、政治的が試み必要ということが見えたと思う。人や個人的体験が根底にあることがよく話されて良かった (1)
- ・ 質疑の時間が短かった。とくにパネルディスカッションでは、意見を言いたかった人は多かったと思う (1)

III 全体について

とても良かった (6) 良かった (16) どちらとも言えない (1) あまり良くなかった (0)
良くなかった (0)

- ・ 世界においてはまだまだ男女の格差が大きい国があることを改めて認識することが出来た (1)
- ・ ジェンダーは、どの分野にも関連することであるが、広い範囲に及ぶ分なかなか合入れない部分もあるという事実もあるのではないかと思った (1)
- ・ 内容はもちろん会場の雰囲気も良く、また2つの言語で聞けるようになっており良かった (1)
- ・ 各学部、数多くの方が参加したので、皆さん、災害後の支援に関心をお持ちしているようで良かった (1)
- ・ 3つの講演とパネリストの専門分野からの知見が有機的にかみ合って、触発される内容であった (1)
- ・ 改めて震災について考える機会となった。視点が広がった (1)
- ・ 女性、子ども、高齢者などのキーワードをより深く理解しました (1)
- ・ それでも「要らない防波堤をお金を使って作る」政治にどういう対抗、交渉をしたらよいか正面から話し合う必要がありますね。「多様性の尊重」をする時に「弱者に合わせて全体を良くする」ことを前面に出す必要もあると思いました (1)
- ・ 今回気付いたことは、「安全」と「安心」の違い。前者は、客観基準を設けて、誰にでも或いはある母集団に、一律に提供できる。後者は主観的、感覚的で、実に多様なため、一律には提供できない。自然科学は、前者は得意だが、後者は苦手。そこで必要なのが社会科学との連携 (1)

Ⅲ本日の「国際シンポジウム」の感想、今後取り上げてほしいテーマがあれば、お書き下さい。語彙堅固質問も歓迎です。

- ・同時通訳があって良かった (2)
- ・漠然と“社会における～”女性参画よりも“災害時の”というテーマだったので、タイムリーでもあり、イメージしやすくあった
- ・多様な分野の話が聞けて参考になった
- ・今回のような専門的なテーマで開催されるのはとても良いと思う。工学分野の方々の知見、考え方の技法が参考になった。
- ・女性は守るべき！というような、フェミニズム的な視点のテーマがまだまだ一般的に多いと考えるので、違う視点のテーマがあると面白いのではと思います。(パネルディスカッションの最初にも、男性の先生が「こういう場で男性は発言しにくい」とおっしゃっていましたが、そうではない本当の「共同参画」とはどういうことなのかなということを考えてみました)
- ・国際的視点より見た女性の教育と権利に関するテーマ
- ・講演に対する Q&A の時間、講演者同士の意見交換の時間があつたら良かったのではないのでしょうか？
- ・質問したかったこと

山形大の上山先生や、神戸学院大の糟谷先生など、自然科学と社会科学の中間で仕事している方に

「Q. 多様な人々に一様に安心を提供するために、自然科学は何をすればいいのか？どんな客観データを出しても、その人に信用がなければ、誰も安心しない。信用できる人の言葉でしか安心できないなら、自然科学など意味がなく、有効なのはメンタリズムだけではないか？」などと、自然科学の無力さを感じたのでした。

年齢

20代 (7) 30代 (7) 40代 (6) 50代以上 (9)

ポジション

学部生 (0) 学生 (修士課程) (4) 学生 (博士課程) (2)

職業

教員 (神戸大学) (9) 職員 (神戸大学) (1) その他 (2)

国際シンポジウムの開催を知った経路は

ポスター (5) 学内連絡 (21) 指導教員 (5) 知人 (5)
ウェブサイト [大学・推進室 (1)・その他のサイト] (1) その他